

海軍公報

第五〇六一號

海軍大臣官房

昭和十九年十一月四日(土)

○令 達

官房第一二二五號

昭和十六年官房第三六一九號海軍軍事關係部外國體等ノ指導ニ
關スル事務分擔ノ件中左ノ通改正ス

昭和十九年十一月一日

海軍大臣

表ヲ左ノ如ク改ム

局部課名	指導スベキ團體等
軍務局第三課	海防義會 海軍協會 海軍有終會 洋々會 太平洋協會 くろがね會 海洋道場建設委員會 大日本海洋美術協會 海洋音樂協會 大日本婦人會 其ノ他他部局ノ所掌ニ屬セザル海軍軍事關係團體
兵備局第一課	住宅營團
兵備局第二課	海軍各工業會(協力會ヲ含ム) 軍事工業協議會 重要産業團體令ニ依ル各統制會 重要産業協議會 日本經濟聯盟會 全國商工經濟會協議會及各商工經濟會 工政會
兵備局第三課	大日本潛水協會 中央水產業會 大日本水產會 船舶運營會 日本海運協會 木船海運協會 日本海運報國團 日本海員救濟援護會 帝國水難救濟會 港灣協會 日本港運業會 日本海事振興會 水上消防署協贊會
兵備局第四課	大日本產業報國會 大日本勞務報國會 扶桑會 日本厚生協會

海軍公報 第五〇六一號

昭和十九年十一月四日

四二三

1683

<p>艦政本部 總務部第一課</p>	<p>經理局第三課</p>	<p>教育局第三課</p>	<p>教育局第一課</p>	<p>人事局第二課</p>	
<p>造船協會</p>	<p>三笠保存會 東京都統後奉公會聯合會 大日本百貨店組合</p>	<p>大日本青少年團 大日本海洋少年團 大日本學徒海洋教練振興會 學校報國團 部外學校學徒關係團體</p>	<p>大日本體育會 銃劍術振興會 武德會 講道館 大日本射擊協會</p>	<p>東鄉會 忠靈顯彰會 軍人援護會 師範出身徵兵關係諸團體 大日本傷痍軍人會 全國社會事業協會 在鄉軍人會</p>	<p>海軍移動藝能隊 職長教育指導協會</p>
<p>教育第三二八號ノ二 昭和十九年十月二十七日</p>	<p>航空本部 總務部第一課 大日本飛行協會 大日本航空青少年隊 大日本航空婦人會 大日本航空美術協會</p> <p>(諸例則卷二、二七八ノ六頁參照)</p> <p>〇 通 牒</p> <p>兵備第三五三號 昭和十九年十月二十七日 海軍省兵備局長</p> <p>關係各廳長殿</p> <p>良間工場事業場ノ標札掲出ニ關スル件申進 首題ノ件今般陸軍、海軍、軍需、運輸通信四省間ニ於テ申合ノ 上左記ノ通定メラレ候條可然取計相成度</p> <p>記</p> <p>軍需會社指定工場(軍需會社法ニ依ルモノ)又ハ管理工場(工 場事業場管理令ニ依ルモノ)ニ付テハ軍需會社又ハ管理工場タ ルコトヲ記入シタル標札ハ之ヲ掲ガザルコト但シ監督工場(海 軍ニ在リテハ海軍監督工場規程ニ依ルモノ)ハ之ヲ用フルヲ妨 グズ</p>				

海軍省教育局長

關係各廳長殿

官立無線電信講習所ニ配屬セラレタル海軍現
役武官ノ教育擔當等ニ關スル件申進

首題ニ關シ別紙甲號運輸通信省通信院電波局長及官立無線電信
講習所長宛協議ニ對シ同乙號、乙號ノ二ノ通異存無之旨回答有
之候條了知相成度

(別紙甲號)

教育第三二八號

昭和十九年九月二十一日

海軍省教育局長

運輸通信省通信院電波局長殿
官立無線電信講習所長

官立無線電信講習所ニ於ケル配屬海軍武官教
育擔當ニ關スル件協議

首題ノ件ニ關シ別紙第一及同第二ノ如ク協定致度候條御了承相
成度

(別紙第一)

官立無線電信講習所(鶴沼支所)配屬海軍武
官教育擔當等ニ關スル件

一 教育ノ擔當及實施

(イ) 昭和十八年勅令第五八八號第一條規定ノ海軍豫備員候補
者トシテ必要ナル教育ヲ擔當ス

(ロ) 無線電信講習所教育規程ニ依ルノ外海軍豫備練習生教育

綱領ニ基キ實施ス尙生徒ノ訓育ヲ擔當スルモノトス(配屬
武官ニ生徒ノ訓育ヲ派遣下士官ニ生徒ノ訓育事務ヲ囑託セ
ラルモノトス)

二 身分關係

昭和十八年勅令第五八八號第二條規定ニ依ル

三 職務並ニ學校職員トノ關係

(イ) 講習所諸規則、教育綱領、教程表、教育實施細則等ノ制
定及改正並ニ入所、卒業各試験、生徒ノ採用、進級、命免
及卒業ニ關シテハ主要職員同様之ニ干與スルモノトス

(ロ) 所務會議、職員會議等重要會議ニハ主要職員同様之ニ參
加スルモノトス

(ハ) 所長ハ配屬武官擔當ノ教育實施ニ際シ之ニ關係スル職員
ヲシテ配屬武官ノ指示ヲ受ケシムルコト

(ニ) 配屬武官擔當ノ教育ニ關シ書類ヲ提出スル時ハ所長ヲ經
由スルモノトス

(ホ) 海軍豫備練習生教育查閱ハ別ニ定メアル同規程ニ依ルモ
ノトス

(ヘ) 配屬武官教育ノ目的ヲ以テ海軍ヨリ職技演習其ノ他ニ出
張セシムルコトアリ

四 經費

配屬武官ニ要スル經費ニ關シテハ俸給赴任轉任其ノ他海軍ノ
用務ヲ以テスル出張等ノ費用ハ海軍省ノ負擔トシ講習所勤務
中ノ費用ハ講習所ニ於テ之ヲ負擔スルコト

海軍公報 第五〇六一號 昭和十九年十一月四日

四一五

1685

(別紙第二)

官立無線電信講習所(熊本支所)配屬海軍武官教育擔當ニ關スル件

一 教育ノ擔當及實施

(イ) 昭和十八年勅令第五八八號第一條規定ノ教練ヲ擔當ス

(ロ) 無線電信講習所教育規程ニ依ルノ外別紙ノ如ク擔當實施ス尙生徒ノ訓育ヲ擔當スルモノトス(配屬武官ニ生徒ノ訓育ヲ派遣下士官ニ生徒ノ訓育事務ヲ囑託セラルルモノトス)

二 身分關係

昭和十八年勅令第五八八號第二條規定ニ依ル

三 執務並ニ學校職員トノ關係

(イ) 講習所諸規則、教育綱領、教程表、教育實施細則等ノ制定及改正並ニ入所、卒業各試験、生徒ノ採用、進級、命免及卒業ニ關シテハ主要職員同様之ニ干與スルモノトス

(ロ) 所務會議、職員會議等重要會議ニハ主要職員同様之ニ參加スルモノトス

(ハ) 所長ハ配屬武官擔當ノ教育實施ニ際シ之ニ關係スル職員ヲシテ配屬武官ノ指示ヲ受ケシムルコト

(ニ) 配屬武官擔當ノ教育ニ關シ書類ヲ提出スル時ハ所長ヲ經由スルモノトス

(ホ) 教練ニ關スル教育査閱ハ別ニ定アル同規程ニ依ルモノトス

ス

(ハ) 配屬武官教育ノ目的ヲ以テ海軍ヨリ戰技演習其ノ他ニ出張セシムルコトアリ

四 經費

配屬武官ニ要スル經費ニ關シテハ依給赴任轉任其ノ他海軍ノ用務ヲ以テスル出張等ノ費用ハ海軍省ノ負擔トシ講習所勤務中ノ費用ハ講習所ニ於テ之ヲ負擔スルコト

(別紙)

一 配屬武官ハ左ノ教務ヲ擔當ス但シ每週擔當教務時數ハ十五時間以內トス

軍事學及演習

通信術及電測術ノ一部

防諜ニ關スル事項

體操

技業ノ一部

軍事學及演習ノ範圍

海軍須知事項一般

隨戰教練(小隊)

通信兵器、通信法及通信要務概要

電測關係兵器及電測法一般

暗號法ノ一部

機密保持

手旗信號法、發光信號ノ初步
橋漕法

(リ) 軍事講話

(別紙乙號)

通波監第六二九號

昭和十九年十月三日

通信院電波局長

海軍省教育局長殿

無總電信講習所ニ於ケル配屬海軍武官教育擔當ニ關スル件

首題ノ件異存無之候

尙本件無總電信講習所ニ對シ御趣旨ノ通取計フコトニ連絡致置候條御諒知相成度候

(別紙乙號ノ二)

無講教第一四二三號

昭和十九年十月九日

無線電信講習所長

海軍省教育局長殿

官立無線電信講習所ニ於ケル配屬海軍武官教育分擔ニ關スル件回答

對教育第三二八號(昭和一九、九、一九)

首題ノ件異存無之相當手酌濟ニ付諒知相成度

繼本第八號ノ三二七九

海軍公報 第五〇六一號 昭和十九年十一月四日

各海軍工作廳長殿

海軍工廠資金ヨリ造船造兵材料物品ノ供給ヲ受クル場合ノ特例ニ關スル件照會

首題ノ件ニ關シテハ今般官房經第九五七號ヲ以テ大正十四年八月官房第二七一九號ノ特例發付セラレ候處特ニ左記ニ依リ適當ナル運用ヲ計ル様留意相成度

記

一 資金材料ヲ購入スル場合ニハ官房第二七一九號別紙書式ヲ使用スルモ番號別及部局別整理ヲ要スルモノノ外ハ之ヲ要求元別工場別ニ記入スルヲ要セズ豫算科目別ニ一括記入ノコトトシ要スレバ之ニ數工場ニテ使用スル數品名各種寸度ノ材料ヲ明記シタル別紙ヲ添付處理ノコト

二 購入後ノ材料ハ會計部ニ於テ保管シ必要ニ應ジ所要ノ材料ヲ工場ニ交付シ併セテ其ノ間各工場間ノ彼此融通ヲ計ル如ク取扱ヒ材料管理ニ萬遺憾ナキヲ期スルコト

尙從來ヨリノ直買材料ノ取扱ニ關シテモ此ノ際右ノ通取扱フコト

○ 雜 款

○ 轉官
海軍技手中島寅男ハ九月三十日高尾州郡技手ニ、同渡邊作藏ハ

四一七

1687

同日臺灣總督府專賣局技手ニ執モ轉官セリ

海軍書記新島忠雄同河内 透ハ十月十六日執モ大阪府警部補ニ
轉官セリ

海軍技師北村市太郎ハ十月二十八日鐵道官ニ轉官セリ

○正誤

海軍會計法規類集三卷七六ノ五七頁末行ノ次ニ左ノ通脱ス

一 貸與品

作業帽

地下足袋

卷脚絆

二 貸與者

屋外作業ニ従事スル徴用工員

三 貸與法方

入部ノ際貸與シ之ガ使用ニ堪ヘザルニ至リタルトキハ現場

主任(判任官以上)ノ證明ニ依リ更ニ新品(再用古品)ト

引換貸與スルコトヲ得

四 支辨科目

臨時軍事費(款項)運輸費

(海軍省經理局)

海軍書記石原登一郎ハ十月二十二日死去セリ

海軍公報

第五〇六二號

昭和十九年十一月七日(火)
海軍大臣官房

○通牒

經給第二號ノ一八ノ三

昭和十九年十一月六日

海軍省經理局長
海軍運輸本部長

關係各廳長殿

入營者旅客運賃割引證ヲ内地鐵道共通使用

ニ關スル件通牒

首題ノ件ニ關シ左記甲號照會ニ對シ乙號ノ通運輸通信省鐵道總局業務局長ヨリ回答有之候ニ付了知相成度

記

(甲號)

運本機密第一〇一八號

昭和十九年七月十一日

海軍運輸本部長

運輸通信省鐵道總局業務局長殿

入營者旅客運賃割引證ヲ内地鐵道共通使用

ニ關スル件照會

今般勅令第三三九號ニ依リ朝鮮、關東州及滿洲國ニ於ケル在留内地人ニ對シ海軍志願兵徵募ヲ施行シ各地ニ於ケル採用者ハ全

海軍公報 第五〇六二號 昭和十九年十一月七日

部内地海軍部隊ニ入團(隊)セシメ教育實施ノコトニ定メラレ候處現行ノ入營者旅客運賃割引證ハ内地區間ノミ有效ニシテ外地鐵道ニテハ使用不可能ノ爲内地別乘ノ割引證ヲ必要トシ新兵トシテ入團(隊)スル者ノ不便ハ勿論外地鐵道機關ニ於テモ取扱上困難シツツアル實情ニ有之候條入營者旅客運賃割引證一葉ヲ以テ内地ヲ通ジ有效トナル如ク取計相煩度

(乙號)

鐵業輸三第一九一號

昭和十九年十月二十三日

運輸通信省鐵道總局業務局長

海軍運輸本部長殿

七月十一日附運本機密第一〇一八號ヲ以テ御來照ニ係ル入營者旅客運賃割引證ニ關スル件ハ御來意ノ通之方取扱ヲ爲スコトトシ別紙ノ通手配致置候條左様御了知相成度

(別紙) 昭和十九年十月二十日運輸通信公報第二九二號

●達第八〇二號

昭和十九年十一月鐵道省告示第五百七十六號ニ依ル入營者ニ對シテハ左ノ各號ニ依リ昭和二十年十月三十一日迄連絡運輸ノ取扱ヲ爲スベシ

入營者ニ對スル連絡運輸取扱方ノ件

四一九

1689

一 入營者ヨリ省線ト内地連絡運輸規則及日滿支連絡運輸規則ニ依リ連絡運輸ヲ爲ス運輸機關(華北線及華中線ヲ除ク)ニ跨ル連絡乗車券ノ購求方申出アリクルトキハ一葉ノ入營者旅客運賃割引證ヲ收受シ旅客運賃ヲ左ノ通低減ス

イ 各鐵道、軌道及自動車線 五割

ロ 各社航路 二割

二 入營者ニ對シテハ旅客ノ連絡運輸ヲ爲ス省社間ニ於テハ省連絡運輸區域外ニ亘ルモノト雖モ連絡乗車券ノ發賣ヲ爲スコトヲ得

三 前各號以外ノ取扱ハ内地連絡運輸規則、日滿支連絡運輸規則及昭和九年十一月鐵道省告示第五百七十六號ノ定ムル所ニ依ル

附則

昭和十五年十月達第八一〇號入營者ニ對スル連絡運輸取扱方ノ件ハ之ヲ廢止ス

○雜 款

水交發第一一四九號ノ二

大東亞戰爭中水交社規則第十條第一項ノ規定ニ依ル水交社費ノ際出ニ關シテハ同規定ニ拘ラズ昭和十九年十二月一日ヨリ左記ニ依リ之ヲ實施ス

昭和十九年十一月六日

水 交 社 長

記

社員ハ社費ニ充ツル爲毎年十二月一日現ニ受クル年俸百分ノニ相當スル金額(厘位切捨)ヲ同日以後一年分ノ社費トシテ際出スルモノトス但シ十二月二日以降新ニ社員ト爲リタル者ハ其ノ際現ニ受クル俸給月額ノ百分ノ一ニ次期際出期日迄ノ期間(一月未滿切捨)ヲ乗ジタル額ヲ際出スルモノトシ豫備役又ハ退役ノ社員(召集中ノ者ヲ除ク)及退職又ハ退官ノ社員ハ釀金ヲ行ハズ尙社費際出後次期際出期日迄ノ間ニ於テ社員身上ニ異動アルモ當該期間ノ社費ヲ増減又ハ返還スルコトナシ

○宿所竝ニ電話架設

海軍運輸本部總務課長兼第一課長海軍大佐國府田 清宅

埼玉縣入間郡高階村藤間一八〇

電話川越 四八六番

○轉官

海軍技手佐用徳司、同櫻井 茂八十月三十一日孰モ鐵道官補ニ

轉官セリ

海軍司政官横大路俊一八十一月一日内務書記官ニ轉官セリ

海軍書記若崎義男八十一月四日厚生局ニ轉官セリ

海軍公報 號外

勅語

皇房第一二四二號

本日本支那派遣軍總司令官及支那方面艦隊司令長官ニ對シ左ノ

勅語ヲ賜ハリタリ

昭和十九年十一月十一日

海軍大臣

勅語

中南支方面ニ作戰セル軍ノ將兵ハ約半歲ニ互リ至難ナル機動
作戰ヲ敢行シ瘡痍ヲ冒シ艱苦ニ堪ヘ隨處ニ在支米空軍ノ根據
ヲ擊摧シテ克ク作戰目的ヲ達成シ以テ全局ノ作戰ニ寄與セリ
朕深ク之ヲ嘉尚ス

海軍公報 號外

昭和十九年十一月十一日(土)

海軍大臣官房

1691

海軍公報

第五〇六三號

海軍大臣官房

昭和十九年十一月十三日(月)

○令 達

達第三六四號

昭和十九年達第八二號海軍技術科武官任用特例ニ依リ下士官ニ任用セラレタル者ノ特技章付與ノ件中左ノ通改正ス

昭和十九年十一月八日

海軍大臣

「海軍下士官ニ任用セラレタル者」ヲ「海軍下士官ニ任用セラレタル者ニシテ築城施設關係ノモノ」ニ改ム

(諸例則卷二、一〇ノ二頁参照)

官房經第一〇一一號

昭和十九年官房經第四七七號中左ノ通改正ス

昭和十九年十一月九日

海軍大臣

別表備考ニ左ノ一號ヲ加フ

三 海軍内國旅費規則第七表ノ額ヲ超ユル旅費ヲ受クル者ニハ手當ヲ支給セズ

(参照) 海軍會計法規類集二卷四八一頁

○雜 款

○宿所並ニ電話

海軍氣象部長 海軍少將 渡邊清七宅

鎌倉市材木座九一六番地

電話鎌倉 七九四番

○轉官

海軍警部三谷 渡ハ十月三十一日香川縣屬ニ轉官セリ

海軍司政官小玉眞貫ハ十一月四日臺灣總督府地方理事官ニ同

鈴木武男ハ同日地方事務官ニ執モ轉官セリ

海軍書記遠山 靜ハ十一月五日内務屬ニ轉官セリ

○休職滿期

海軍技師平林初雄、同桑川俊夫ハ十一月八日執モ休職滿期ト爲レリ

海軍公報 第五〇六三號 昭和十九年十一月十三日

四二二

海軍公報

第五〇六四號

海軍大臣官房

昭和十九年十一月十四日(火)

○令 達

達第三六五號

海軍給與令施行細則中左ノ通改正ス

昭和十九年十一月十三日

海軍大臣

第一條、第九條、第十三條、第二十條、第四十一條、第六十一條乃至第六十三條、第六十九條ノ二、第九十六條、第九十七條、第九十九條、第一百條、第一百七條、第一百八條、第一百四十一條、第一百四十七條、第一百四十八條及第六十八條中「艦團其ノ他各部」ヲ「艦船部隊其ノ他ノ各部」ニ改ム

第二條ノ二中「召集中ノ例」ノ下ニ「豫備員タル少尉候補生ニ在リテハ現役軍人タル少尉候補生ノ額」ヲ加フ

第十六條中「艦團其ノ他各部」ヲ「艦船部隊其ノ他ノ各部」ニ改メ第三項ヲ削ル

第十九條中「第十五條及第十六條第二項及第三項」ヲ「第十六條」ニ改ム

第三十一條中「露領」ヲ「蘇聯領」ニ改ム

第五十五條、第二百二十八條、第三百三十七條ノ二及第四百十九條中「團隊」ヲ「部隊」ニ改ム

第六十五條中「海軍將校相當官現役期間特例」ヲ「海軍將校相

當官服役特例」ニ改ム

第六十六條及第六十七條ヲ削リ第六十五條ノ二ヲ第六十六條、第六十五條ノ三ヲ第六十七條トス

第六十八條削除

第二百二十條ノ二 給與令第七十九條ノ二第一項ノ規定ニ依リ給與スル被服物品及同條第二項ノ規定ニ依ル使用期間ハ第十九

表ノ二ニ依ル

第二百二十條ノ三 給與令第十三表ノ三第十一號乃至第十七號ニ

掲グル物品ニ付現品給與ニ代ヘ代料ヲ支給スル場合ハ之ヲ一年十五回トス

前項ノ代料ハ新ニ採用セラレタルトキハ其ノ月ヨリ、轉勤、轉職、免職又ハ死亡ノトキハ其ノ月迄月割計算ヲ以テ之ヲ支給ス

第一項ノ代料ハ毎年九月ニ於テ之ヲ支給ス但シ轉勤、轉職、免職又ハ死亡ノトキハ其ノ際支給ス

第二百二十條ノ四 給與令第七十九條ノ四ノ規定ニ依リ貸與スル物品ハ第十九表ノ三ニ依ル

第二百二十條ノ五 給與令第七十九條ノ五ノ規定ニ依リ辨償セシムベキ代價ハ海軍省經理局長ノ定ムル所ニ依ル給與令第七十九條ノ六但書ノ規定ニ依リ返納セシムル金額ニ付亦同ジ



第三百三十一條ノ二中「第七十九條ノ二」ヲ「第七十九條ノ七」ニ、「第十九表ノ二」ヲ「第十九表ノ四」ニ改ム

第三百三十六條ヲ削リ第三百三十六條ノ二ヲ第三百三十六條トス

第三百三十八條中「第七十九條ノ二」ヲ「第七十九條ノ七」ニ改ム

第十一表備考第十二號中「露領」ヲ「蘇聯領」ニ改ム

第十四表中「艦團」ヲ「艦船部隊」ニ、「露領」ヲ「蘇聯領」ニ改ム

第十九表ノ二中「第七十九條ノ二」ヲ「第七十九條ノ七」ニ改ム

又同表ヲ第十九表ノ四トス

第二十表ノ二備考第一號中「二十錢」ヲ「三十錢」ニ改ム

附則

本達ハ昭和十九年十一月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス但シ第六十六條乃至第六十八條、第二百二十條ノ二乃至第二百二十條ノ五、第三百三十一條ノ二、第三百三十八條及第十九表ノ二ノ改正規定ハ昭和十九年十月十五日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

従前ノ海軍給與令第五十九條ノ規定ニ依リ初度手當ノ支給ヲ受ケタル者ニ付テハ第二百二十條ノ二乃至第二百二十條ノ五ノ規定ハ昭和二十一年四月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

前項ノ規定ニ該當スル者昭和二十一年四月一日前第二百二十條ノ二及第二百二十條ノ四ニ掲グル物品ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於テハ本人ノ申請ニ依リ當該物品ヲ給與又ハ貸與スルコトヲ得前項ノ規定ニ依リ當該物品ノ給與又ハ貸與ヲ受ケタル者故意又

ハ過失ニ依リ其ノ物品ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ第二百二十條ノ五ノ規定ヲ準用ス

(別表添)

(参照) 海軍會計法規類集二卷四五頁
作戦部隊用海軍會計法規類集一四七頁

達第三六六號

供給労働者扶助令施行細則中左ノ通改正ス

昭和十九年十一月十三日

海軍大臣

第五條中但書ヲ削ル

(参照) 海軍會計法規類集二卷五二五頁

○ 通 牒

經給第二二六號

昭和十九年十一月十三日

海軍省 經理局長

關係各廳長 殿

海軍監獄看守及海軍警査ノ被服物品代價ノ件

通牒

海軍給與令施行細則第二百二十條ノ五ノ規定ニ依リ辨償セシムベキ被服物品ノ代價ハ當分ノ間別表ニ依ル義ト了知相成度

(別表添)

(達第三六五號別表)

備考	第十九表ノ二 被服物品及使用期間											
	雨 衣	短 外 套	外 套	略 服	夏 服	冬 服	略 帽	朝 日 覆	靴	品 名	定 数	使 用 期 間
本表ノ被服物品ハ通常物品トシテ取扱フモノトス	一個	一個	一個	二組	二組	二組	二個	二個	無	靴	一組	一年
	無期	無期	無期	無期	無期	無期	無期	二年	無期	下 靴	四組	每年五月一日及十一月一日二組宛交付ス
			夏 襪	冬 襪	ネ ク タイ	手 袋	フ イ シ ヤ ツ 又 ハ 開 襟 シ ヤ ツ	カ ラ	半 靴	一 組	一 組	一年
			二個	一個	一個	一組	二個	二個	靴	一組	一組	一年
			一年	三年	一年	一年六月	一年	每年五月一日及十一月一日二個宛交付ス				

(昭和十九年十一月十四日海軍公報)

1695

(達第三六五號別表)

第十九表ノ三 貸與物品定數表

(昭和十九年十一月十四日海軍公報)

備考	品名	數量
一 防寒用被服、作業用被服又ハ卷脚絆ノ貸與ハ所屬長官ノ定ムル所ニ依ル	刀	一
二 本表ノ物品ハ通常物品トシテ取扱フモノトス	刀緒	一
	刀帶	一
	帽前章	所要數
	略帽前章	所要數
	襟章	所要數
	識別章	所要數
	防寒用被服	一組
	作業用被服	一組
	卷脚絆	一組

(經給第三二六號別表)

(昭和十九年十一月十四日海軍公報)

品名	代價	被服物品代價		品名	代價	被服物品代價	
		減額	付率			減額	付率
略帽	一五〇	五分ノ一		夏襦袢	四三五	二分ノ一	
略服	二五〇	四分ノ一		靴下	三五	全額	
外套	六二〇	二十分ノ一		刀	三〇〇	二十分ノ一	
短外套	五五〇	二十分ノ一		刀緒	一二〇	二十分ノ一	
雨衣	四六〇	八分ノ一		刀帶	五〇〇	二十分ノ一	
半靴	一六五〇	二分ノ一		略帽前章	五〇	三分ノ一	
カラシ	四〇	全額		襟章	一三〇	三分ノ一	
ワイシャツ	二八〇	二分ノ一		織別章	五〇	四分ノ一	
開襟シャツ	二八〇	二分ノ一		巻脚絆	三五〇	四分ノ一	
ネクタイ	七〇	二分ノ一		防寒用被服			
冬襦袢	五五〇	六分ノ一		作業用被服			
冬襦袢	五五〇	六分ノ一		實費			

備考
 一 使用期間六月ニ滿タザル日數ハ六月ト看做ス
 二 計算上十錢未満ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ切捨ツルコトヲ得

海軍公報

第五〇六五號

海軍大臣官房

昭和十九年十一月十七日(金)

○令 達

達第三六七號

昭和十九年達第三三四號工員養成所ノ見習科、補修科及選科ノ教育ニ關スル件中左ノ通改正ス

昭和十九年十一月十四日

海軍大臣

第二號中「見習科」ヲ削ル

(諸例則卷三、五六四ノ九九頁參照)

官房軍第一二五四號

臨時糧食生産班規程中左ノ通改正ス

昭和十九年十一月十五日

海軍大臣

第七條中海軍省軍需局局員「七人」ヲ「十人」ニ改ム

(諸例則卷一、一〇六ノ六ノ二頁參照)

○通 達

兵備一第一號ノ一〇四

昭和十九年十一月十六日

海軍省兵備局長

關係各廳長殿

海軍通信隊ニ於ケル公衆通信取扱ニ關スル件中進

客年兵備一第一號ノ四〇中進首題ノ件中左記ノ通改メラレ候

記

東京通信隊ノ通信電波「三三」ヲ「三九」ニ改ム

(諸例則卷三、六七二頁參照)

○雜 款

○外國武官離任

在本邦泰國大使館附空軍武官寮軍中佐 Korn Kornkeosyakart
ハ十一月十三日離任セリ

水交發第一一八六號

大東亞戰爭中水交社規則ニ拘ラズ在郷社員、推薦社員、海軍部
外高等官又ハ海軍部内高等官待遇囑託(外國人ヲ除ク)ニシテ
常時海軍ニ於テ勤務スルモノ及海軍部内高等官待遇徵用員ノ水
交社施設利用ニ關シ左ノ通定ム、

昭和十九年十一月十七日

水交社 長

一 施設ノ關係上在郷社員及推薦社員ノ水交社施設利用ニ關シ

海軍公報 第五〇六五號

昭和十九年十一月十七日

四二五

1698

制限ヲ設クルノ已ムナキ場合ト雖モ在郷社員及推薦社員中海軍ノ高等官待遇囑託ト爲リ常時海軍ニ於テ勤務スル者ハ其ノ勤務期間中ニ限り現役社員ニ準ジ各地水交社、同分社及集會所ノ諸施設ヲ利用セシムルモノトス

一 海軍部外高等官又ハ海軍部内高等官待遇囑託ニシテ常時海軍ニ於テ勤務スルモノ及海軍部内高等官待遇員中水交社施設ノ利用ヲ希望スル者ハ各地水交社ノ銓衡ニ依リ其ノ勤務期間中ニ限り之ヲ社員待遇トシ各地水交社、同分社及集會所ノ施設中食堂部ニ限り之ヲ利用セシムルモノトス

三 前號ノ規定ニ依リ社員待遇ヲ希望スル者ハ別紙第一様式ニ依リ社員待遇申込書ニ海軍勤務廳長ノ證明ヲ求メ給與掌理者ヲ經由シテ最寄水交社ニ申込ムモノトス
四 前諸號ノ社員及社員待遇者ハ左ノ區分ニ依リ社費ヲ釀出スルモノトス

第一號 該當社員 海軍ニ於ケル報酬額ノ千分ノ十
第二號 該當ノ海軍部外高等官タル社員待遇者 本官ノ俸給額ノ千分ノ五
第二號 該當ノ海軍部内高等官待遇囑託及同僚用員タル社員待遇者 海軍ニ於ケル報酬額ノ千分ノ五
五 東京水交社以外ノ各地水交社ニ於テ第二號ニ依ル社員待遇者ヲ銓衡シタルトキハ毎月一日別紙第二様式ニ依リ社員待遇付與者名簿ヲ調製シ之ヲ東京水交社ニ送付スルモノトス

(別紙添)

水交發第一一八七號
水交社内ニ於ケル取締上當分ノ開水交社社員證ノ發行ニ關シ左ノ通定ム
昭和十九年十一月十七日

水 交 社 長

第一條 社員中離現役ノ海軍高等武官、候補生及推薦社員(召集中ノ者及昭和十八年官房軍機密第四一五號ニ依ル海軍身分證明證ヲ所有スル者ヲ除ク)ニ對シ附圖第一様式ノ水交社社員證(以下社員證ト略稱ス)ヲ發行交付スルモノトス

第二條 社員證ハ東京水交社及各鎮守府、各警備府所在地ノ各水交社(以下各地水交社ト略稱ス)ニ於テ之ヲ發行スルモノトス
前項ノ社員證ハ各地水交社、同分社及集會所相互ニ通用スルモノトス

第三條 社員證ノ發行交付ヲ受ケントスル者ハ別紙第一様式ニ社員證用寫真(名刺型)一葉ヲ添へ最寄ノ各地水交社ニ申込ムモノトス

第四條 各地水交社ハ別紙第二様式ニ依リ社員證發行原簿ヲ備へ社員證ノ發行交付及返還ヲ確實明瞭ガラシムルヲ要ス

第五條 東京水交社以外ノ各地水交社ハ別紙第三様式ニ依リ毎月一日現在ニ於ケル社員證發行現況報告書ヲ調製シ東京水交社ニ之ヲ送付スルモノトス
第六條 社員中左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ第一條ノ

1699

規定ニ依ル社員證ノ發行ニ代フルニ昭和十八年官房軍機密第
四一五號ニ依ル海軍身分證明證表面ノ「證」ノ上部ニ附圖第
二様式ノ證印ヲ捺捺スルモノトス

一 現役ノ海軍高等武官及候補生、海軍高等文官

二 離現役ノ海軍高等武官、候補生ニシテ召集中ノモノ

三 在郷社員及推薦社員ニシテ海軍ノ高等官待遇囑託ト爲リ
常時海軍ニ於テ勤務スルモノ

四 海軍部外高等官、海軍部内高等官待遇囑託(外國人ヲ除
ク)ニシテ常時海軍ニ於テ勤務スルモノ及海軍部内高等官

待遇徵用員ニシテ希望ニ依リ社員待遇ト爲リタルモノ

前項ノ證印ハ各地水交社ニ於テ之ヲ捺捺ス

第七條 各地水交社、同分社及集會所ハ社(所)内ニ於ケル取
締上要スレバ社員證又ハ證印アル海軍身分證明證ノ提示ヲ求

ムルコトヲ得

社員及社員待遇者ハ前項ノ提示要求ニ對シ之ヲ拒ムコトヲ得
ズ

第八條 社員證ヲ亡失シタルトキハ速ニ交付ヲ受ケタル水交社

ニ其ノ旨届出ヅルモノトス但シ此ノ場合ニ在リテハ届出ノ日

ヨリ二月間再交付スルコトナシ

(別紙添)

○事務開始

海軍省人事局第三課ハ十一月九日海軍省第三分室(東京都目黒

區大岡山東京工業大學内)へ移轉完了事務ヲ開始セリ電話ハ海
軍省第二交換所經由第三分室構内線ヲ使用ス

○宿所並ニ電話

海軍航空本部第二部長 海軍少將 佐伯甚七宅

東京都目黒區自由ヶ丘三一四

電話荏原 八三〇六番

○休職満期

休職海軍技手守屋 淳ハ九月十三日、同山崎真義、同佐伯英三

郎、同福重達藏ハ十月一日、同佐藤修期ハ十一月一日孰レモ休

職満期トナレリ

(水交發第一二八六號別紙第一様式)

昭和 年 月 日

給與掌理者 ㊦

(地名) 水交社理事宛

社員待遇申込書

職名
官名
氏名

名 ㊦

(昭和十九年十一月十七日海軍公報)

小官儀左記ノ通海軍ニ於テ當時勤務致居候ニ付昭和十九年水交發第一二八六號ニ依リ水交社社員待遇付與方取計相成度

記

一 本籍地

二 現住所

三 生年月日

四 勤務廳及配置

右 證 明 ス

昭和 年 月 日

勤務廳長 氏

名 ㊦

(終)

1701

(水交發第一一八六號別紙第二様式)

(昭和十九年十二月十七日海軍公報)

件名番號

昭和 年 月 (自○月一日 至同月末日) 社員待遇付與者名簿

月 日 送付 團

○ ○ 水 交 社

1702

社員待遇 付與月日	本 籍 地	現 住 所	勤 務 處 及 配 置	官 名 職 名	氏 名	生 年 月 日

(註)

官名、嘱託名、職名欄ニハ左ノ區分ニ依リ記註スルモノトス

海軍部外高等官

官 名

海軍部内高等官待遇嘱託

嘱 託 名

海軍部内高等官待遇徵用員

職 名

(水交發第一一八七號別紙第一様式)

昭和 年 月 日

〇〇〇水交社御中

社員證交付申込書

左記ニ依リ社員證發行交付相成度

記

一 本 籍 地

二 現 住 所

三 生 年 月 日

(別紙寫眞ニ捺捺)

官 氏

名 ㊟

(昭和十九年十二月十七日海軍公報)

1703

(水交發第一一八七號別紙第二様式)

社員證發行原簿

(昭和十九年十一月十七日海軍公報)

(〇〇ノ部)

〇〇〇水交社

番發行	年月日付	本籍地	現住所	官氏名	月生日年	年返月日還	記	事

備考
 一 本原簿ハ在郷武官及推薦社員ニ區分シ更ニ武官ハ各科別ニ區分シ之ヲ記入スルモノトス
 二 發行番號ハ各區分毎ニ左ノ符號ヲ冠シ各一貫番號ヲ付與スルモノトス

科 (種別)	符號	記	事
將校及各科特務士官	兵	將校及各科士官ニハ各當該科ノ候補生ヲ含ムモノトス	
軍醫科士官	醫		
藥劑科士官	藥		
主計科士官及主計科特務士官	主		
技術科士官及技術科特務士官	技		
齒科醫科士官	齒		
法務科士官	法		
軍藥科士官及軍藥科特務士官	藥		
看護科士官及看護科特務士官	看		
推薦社員	推		

1704

(水交發第一一八七號別紙第三様式)

件名番號

(昭和十九年十一月十七日海軍公報)

昭和 年

月 (自○月一日
至同月末日)

社員證發行現況報告書

月 日 送付 圖

◎發行交付ノ部

發行番號	交付年月日	本籍地	現住所	官氏名	生年	記	事

◎返還亡失ノ部

發行番號	交付年月日	返還(亡失)年月日	本籍地	現住所	官氏名	返還(亡失)事由

1705

(水交發第一一八七號附圖第一様式)

(表 面)

第 號	社 員 證
本籍地	
現住所	
官氏名	
昭和 年 月 日 交付	年 月 日 生
○ ○ 水 交 社 印	

(註)

表面地色ヲ薄水色トシ中央ニ
浮出トス



印ヲ白色ノ

(裏 面)

(昭和十九年十一月十七日海軍公報)

寫	交 付	眞
	水交社印	

注 意

- 一 本證ハ社(所)内ニ於テ揭示ヲ求ムルコトアリ之ヲ拒ムコトヲ得ズ
- 二 本證ヲ亡失シタルトキハ速ニ交付ヲ受ケタル水交社ニ其ノ旨届出ヅルモノトス但シ此ノ場合ニ在リテハ届出ノ日ヨリ二月間交付スルコトナシ
- 三 本證ハ他人ニ之ヲ貸與スルコトヲ得ズ
- 四 本證不要ト爲リタル場合ハ速ニ交付ヲ受ケタル水交社ニ返還スルモノトス

1706

(水交發第二一八七號附圖第二様式)

(昭和十九年十二月十七日海軍公報)

紫色



- 一 現役海軍高等武官、候補生、海軍高等文官
- 二 離現役ノ海軍高等武官、候補生ニシテ召集中ノモノ
- 三 在郷社員及推薦社員ニシテ海軍ノ高等官待遇囑託トナリ常時海軍ニ於テ勤務スルモノ

紫色



海軍部外高等官、海軍部内高等官待遇囑託(外國人ヲ除ク)ニシテ
 常時海軍ニ於テ勤務スルモノ及海軍部内高等官待遇徵用員ニシテ希
 望ニ依リ社員待遇ト爲リタルモノ

1707

海軍公報

第五〇六六號

〇令 達

達第三六九號

航空兵器經理規程中左ノ通改正ス

昭和十九年十一月十七日

海軍大臣 臣

第十四條 兵備品取扱主任又ハ兵備品補給主任本規程ニ依リ兵器ノ供給ヲ受ケントスルトキハ兵備品會計官吏又ハ兵備品補給主任若ハ兵備品取扱主任ニ之ヲ請求スベシ此ノ場合定數ニ依ル兵器ニ在リテハ航空兵器定數表(第六號書式)ニ出納票(第六號ノ二書式)ヲ調製添附シ又定數外ニ兵器ノ供給ヲ請求スルモノニ在リテハ證憑様式ニ依リ請求票ヲ調製シ送付スルモノトス但シ特別ノ場合ニ於テハ電報其ノ他適宜ノ方法ニ依ルコトヲ得

第十八條中「供給票」ノ下ニ「若ハ出納票」ヲ加フ

第二十條第二號中但書ヲ削ル

第三十條 兵備品取扱主任兵器ヲ亡失シ又ハ第五十三條ノ規定

ニ依リ引換請求ノ結果修理不調若ハ引換ト査定セラレタルトキハ兵器引換請求書(第十號書式)ニ檢査官査定捺印ノモノヲ以テ海軍航空廠ニ請求ヲ爲スベシ此ノ場合海軍航空廠長必

昭和十九年十一月十八日(土)
海軍大臣官房

要アリト認ムルトキハ在庫兵器ヲ供給セシムルコトヲ得
第三十一條第一項中「別表第六號ニ掲グルモノ以外ノ兵器ニ限リ」ヲ「海軍」ニ、同條第二項中「備品」ヲ「兵器」ニ改ム
第三十九條 前六條ノ規定ニ依リ兵器ヲ還納スル場合定數ニ依ル兵器ニ在リテハ航空兵器定數表(第六號書式)ニ出納票(第六號ノ二書式)ヲ調製添附シ又定數外ノ兵器ニ在リテハ證憑様式ニ依リ還納票ヲ調製シ送付スルモノトス此ノ場合出納票又ハ還納票ノ記事欄ニ「良品」、「損品」等必要事項ヲ記載スベシ

第四十四條中但書ヲ削ル

第五十二條 第一項末尾ニ「此ノ場合適宜ノ補助簿ヲ備ヘ整理スベシ」ヲ加フ

第六十六條中但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ航空兵器定數表ニ依リ供給ヲ受ケタル消耗品ニ付テハ消耗品拂出簿ノ記帳ヲ省略スルコトヲ得又消耗品ハ之ヲ監督者ニ一併交付スルヲ妨ゲズ

第六十八條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第六十八條ノ二 兵備品會計官吏又ハ兵備品補給主任ハ兵器ノ供給、還納、保管轉換ノ場合海軍兵器會計規程第二十一條ノ規定ニ拘ラズ荷造票又ハ其ノ他ノ諸票ヲ以テ供給、還納、

海軍公報 第五〇六六號 昭和十九年十一月十八日

四二九

1708

保管轉換ノ證憑ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ荷造票又ハ其ノ他ノ諸票ヲ二通調製送付シ領收者其ノ一通ノ紙端ニ領收ノ旨ヲ記シ記名捺印シテ之ヲ領收票ニ代用スルモノトス兵備品會計官吏又ハ兵備品補給主任出納票ヲ以テ兵器ノ供給又ハ還納ヲ受クル場合出納票ノ各葉毎ニ件名番號ヲ附點セズ毎日受拂別ニ一併シ之ニ件名番號ヲ附シ整理スルコトヲ得此ノ場合ノ件名番號ハ「年月日」ヲ數字ニテ記載シ番號ト爲スコトヲ得

書式中

- 第一號書式備考中第六號ヲ第七號トシ同號末尾ニ「又引續キ請求ノ場合ハ請求書一通ヲ減ズ」ヲ加ヘ第五號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
 - 六 兵器供給請求ノ場合別表第六號ニ掲記スル兵器ニ付テハ二通、其ノ他ノ兵器ニ付テハ三通ヲ最寄海軍航空廠長ニ送付ス
 - 第六號書式ヲ別紙ノ如ク改ム
 - 第六號ノ二書式ヲ別紙ノ如ク定ム
 - 第九號書式備考ヲ左ノ如ク改ム
- 備考
- 一 補充ヲ要スル兵器中修理用トシテ必要ナル部品兵器ヲ含ム場合ハ補充ヲ要スル數額ヲ區分シ上欄ニ部隊供給用ノモノヲ、下欄ニ修理用ノモノヲ記載ノコト
 - 二 記事欄ニハ補充ヲ要スル理由及修理用部品兵器ノ入手

希望期日(年月日記入ノコト)ヲ記載ノコト

三 請求書ハ二通調製送付シ其ノ一通ニ海軍航空本部ニ於テ補充要領其ノ他ヲ記入シ之ヲ請求元處ニ送付スルモノトス

(別紙添)

○雜 款

○滯在地變更

待命海軍技術中尉 泊 康雄(四三)滯在地ヲ横須賀ヨリ佐世保ニ變更ノ件十一月十八日認許セラレタリ

○改姓

海軍技師齊藤忠策ハ酒井ト改姓ノ旨十一月七日届出デタリ

○正誤

十一月十七日附海軍公報水交發第一一八七號別紙第二様式「將校及各科特務士官」ハ「將校及兵科特務士官」ノ、同附圖第一様式(裏面)注意ノ項中「交付スルコトナシ」ハ「再交付スルコトナシ」ノ執モ誤

出 納 票
昭和 年 月 日

(艦船部隊名)

品 名	数 稱	供 給 數	還 納 數
記 事			

取扱者

	所 轄 長
	部 長
	主 任
	請 求 主 務 者
	請 求 擔 當 者

(達第三六九號第六號ノ二様式) 美濃版八切トス

備 考

1. 本票ハ定數ニ依ル兵器ノ供給請求又ハ還納ヲ必要トスルトキ兵備品取
場主任之ヲ調製シ航空兵器定數表ニ添ヘ海軍航空廠又ハ兵備品補給擔任
廳ニ提出ス
2. 航空兵器定數表ヲ提出スルコト能ハザル場合ハ本票二通ヲ調製シ其ノ
一通ニ兵備品會計官吏又ハ兵備品補給主任捺印送付シ供給票又ハ還納領
收票ト爲スコトヲ得
3. 航空兵器經理規程別表第六號ニ掲記スル兵器ノ供給又ハ還納受ノ場合
海軍航空廠又ハ兵備品補給擔任廳ニ於テ寫一通ヲ調製シ之ヲ海軍航空本
部ニ送付ス
4. 本票ハ再用紙又ハ雜用紙ヲ使用スルヲ妨ガズ

(昭和十九年十一月十八日海軍公報)

海軍公報

第五〇六七號

昭和十九年十一月二十一日(火)
海軍大臣官房

○通牒

官房經第二〇三七號

昭和十九年十一月十九日

海軍次官

各所屬長官殿

官廳ニ於ケル職域貯蓄ノ實踐ニ關スル件申改
正ノ件申進

昭和十七年官房第七一三七號ニ依ル首題ノ件中左記ノ通改正セ
ラレ候

記

第四號但書及第十號ヲ削リ第十一號ヲ第十號トシ以下順次繰上
グ

別表中「賃錢」ヲ「報酬金」ニ、同表備考第一號中「東京市」
ヲ「東京都(區ノ存スル區域ニ限ル)」ニ改メ同第六號ヲ削リ第
七號ヲ第六號トス

(參照)〔海軍會計法規類集二卷八〇八ノ四八ノ三ノ二頁
〔作戰部隊用海軍會計法規類集三七七頁

經給第二三二號

昭和十九年十一月十九日

關係各廳長殿

海軍省經理局長

職域貯蓄ノ實踐ニ關スル件申改正ノ件通牒

昭和十七年經給第二〇四號申左ノ通改正ス

五ノ二賞與(年度未賞與ヲ除ク)ニ對スル貯蓄ハ俵給等ニ
對スル貯蓄ト同様ノ方法ヲ選定スルモノトス但シ國債、貯
蓄債券、報國債券等證券ニ依ル貯蓄方法ハ成ル可ク之ヲ避
クルモノトス

(參照)〔海軍會計法規類集二卷八〇八ノ四八ノ六頁
〔作戰部隊用海軍會計法規類集三八〇頁

○雜款

○轉官

海軍書記山本勝義ハ九月二十二日宜蘭市屬ニ、海軍技手川上筑
紫ハ八月二十一日臺灣總督府技手ニ、海軍技手兼氣象技手樺澤
仙次ハ十月二十一日氣象技手ニ、海軍書記兼海運局事務官補藤
井正三ハ十月二十七日海運局事務官補ニ執モ轉官セリ

海軍公報 第五〇六七號

昭和十九年十一月二十一日

四三一

1713

海軍公報

第五〇六八號

海軍大臣官房

昭和十九年十一月二十五日(土)

命令

官房備第三七〇號

昭和十八年官房備第二三二號中左ノ通改正ス

昭和十九年十一月二十一日

海軍大臣

第一號中「男子タル」ヲ削ル

(海軍諸例則卷四、三六〇ノ一四ノ六頁參照)

通牒

軍需衣第七〇號ノ三

昭和十九年度被服物品代表表中左ノ通改正ス

昭和十九年十一月二十四日

海軍省軍需局長

消耗品ノ部中兵夏袴ノ項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

ミ、フ	略	衣	個	三五〇〇
ミ、コ	略	袴	個	三〇〇〇

同部中衣類ノ項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

ミ、マ	褲	個	三〇〇
ミ、ケ	手拭	個	二五〇

貸與品ノ部中「略衣」ヲ「作業服衣」ニ、「略袴」ヲ「作業服袴」ニ改ム

同部中胴衣ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

ミ、エ	作業手袋	組	三〇〇
-----	------	---	-----

同部中航空防眩眼鏡ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

ミ、テ	航空對潜眼鏡	個	四五〇〇
-----	--------	---	------

同部中電熱胴衣ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

ミ、ア	電熱テヨツキ	個	一〇〇〇〇
-----	--------	---	-------

(參照) 昭和十九年四月二十八日海軍公報號外

契運第一號ノ二六

昭和十九年十一月十四日

海軍省經理局

各 應 御 中

經統運送契約控除運賃ニ關スル件照會

本年十月一日ヨリ改訂實施セル首題契約書第十九條及同運賃規約書第四項ニ依リ運送賃ヨリ一括控除スベキ過拂運賃、官給品代價等ハ別紙様式ニ依リ當局第四課宛通知相成度
追テ作業會計所屬物件ニ在リテハ直接當該作業廳ニ通知ノコト

海軍公報 第五〇六八號 昭和十九年十一月二十五日

四三三

トニ取計相成度

(参考)

契約書第十九條、第十二條ニ依ル作業内容ノ變更ニ基ク過拂運賃及第十四條第二項ニ依ル場合各其ノ相當代價ハ運賃規約書ノ定ムル處ニ據リ支拂運賃ヨリ一括控除スルモノトス

第十九條ノ過拂運賃及官給品ノ代價等ハ左ニ依リ計算シ別ニ定ムル方法ニヨリ支拂運賃ヨリ控除スルモノトス

一 官給品

市價ニ依ルモノトシ市價不明ナルモノニ付テハ帳簿價格ニ依ル

二 過拂運賃

(イ) 貨車卸、配達全部ヲ乙ニ於テ實施セザル場合

兵器、軍需品 車扱 一應ニ付 金七四二六錢
小口扱 百疋ニ付 金一四五二錢

木材類 車扱 仕舞拵付ヲ含 一應ニ付 金八四四二錢
仕舞拵付ヲ含 一應ニ付 金六四四六錢
マザル場合

(ロ) 配達ノミヲ乙ニ於テ實施セザル場合

兵器、軍需品 車扱 一應ニ付 金六四四〇錢
小口扱 百疋ニ付 金一四四二錢

木材類 車扱 仕舞拵付ヲ含 一應ニ付 金七四六六錢
仕舞拵付ヲ含 一應ニ付 金五四七〇錢
マザル場合

(ハ) 官ノ運搬具ヲ乙ニ貸與セル場合

普通貨物自動車 一臺 一時間ニ付 金六四七五錢
小型貨物自動車 一臺 一時間ニ付 金二四六五錢
荷牛 馬 車、一臺 一時間ニ付 金二四九五錢
(ニ) 作業員ヲ派遣セル場合ハ一人一日(十時間) 金五四四五(〇錢)

(ホ) 貨車卸配達ノ一部ヲ乙ニ於テ實施セザル場合
作業内容ニ應ジ前諸項控除基本率ニ準ジ實施廳對現地日通支店間ニ於テ其ノ都度査定ノ上決定スルモノトス
(別紙添)

○ 雜 款

十四版海軍諸例則道錄第三十八號(昭和十九年十月十五日現在)十一月二十一日發送済

○ 宿所並ニ電話

海軍運輸本部長海軍少將 石川信吾宅
東京都世田谷區世田谷四丁目四一四番地
電話 世田谷三五〇七

○ 正誤

十月二十六日海軍公報第五〇五九號海軍給與令施行細則中改正第六十四條(ホ)中「文官」ハ「文官同待遇者(部内限待遇者ヲ含ム)」ノ誤

(海軍省 經理局)

(契運第一號ノ二六別紙)

(昭和十九年十一月二十五日海軍公報)

第 號

經 統 運 送 費 控 除 額 通 知 書 昭 和 年 月 日

海 軍 省 經 理 局 御 中

發 行 廳 ㊤

日 通 支 店 ㊤

下 記 ノ 通 控 除 相 成 度

日 附	運送注文書番號	運送物件名	控 除 項 目	控 除 數 量	單 價	控 除 金 額	記 事
19.12.10		木 材	普自動車貸與	2臺 10時間	6750	135000	
12.11		軍 需 品	配達官實施	10噸	6500	65000	
12.15		木 材	揮發油官給	1米	316000	316000	自動車用揮發油給官
12.16		軍 需 品	作業員派遣	10名 5時間	5500	27500	
12.16		木 材	貨車卸配達實施	15噸	6460	96900	仕譯併付ハ日通實施
計						640400	

- 備考 1. 本書ハ四通作成シ(中二通=發行廳、日通支店夫々記名捺印ノ上)發行廳ヨリ海軍省經理局宛送付スルコト
2. 上記欄内ハ記載例ヲ示ス

1716

海軍公報

第五〇六九號

海軍大臣官房

昭和十九年十一月二十九日(水)

○令 達

達第三七二號

昭和十七年達第二七六號中左ノ通改正ス

昭和十九年十一月二十四日

海軍大臣

〔部下ノ將官在ラザルトキハ參謀長タル大佐〕ヲ〔部下ノ將官在ラザルトキハ大佐又ハ當該造船造船兵監督長〕ニ改ム

(參照) 諸例則卷三、五六二ノ二頁

官房經第一〇四五號

大東亞戰爭中資金外造船造船兵材料物品取扱手續第二號ノ規定ハ之ヲ適用ヲ停止ス

昭和十九年十一月二十四日

海軍大臣

(參照) 會計法規類集四卷七一頁

○通 牒

軍務一第二二二號

昭和十九年十一月二十五日

關係各廳長殿

海軍省軍務局長

豫備役期間中刑罰ニ處セラレタル者ノ召集ノ際ニ於ケル善行章徽奪等ニ關スル件通知

豫備役期間中刑罰ニ處セラレタル者ニシテ召集セラレタルトキハ海軍善行章令施行細則第十條第一項但書ノ規定ヲ廣義ニ解シ同細則第四條及第十一條第三項ノ規定ニ依リ褫奪ヲ行ヒ又同細則第五條乃至第七條ノ規定ヲ適用スル義ト了知相成度

○雜 款

○轉官

海軍書記岡田 壽八十月三十一日鐵道官補ニ轉官セリ

海軍司政官横井時常八十一月十八日神祇院教務官ニ、海軍技師 葉輪滿夫八同日營林局技師ニ孰モ轉官セリ

海軍公報 第五〇六九號

昭和十九年十一月二十九日

四三五